

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1992300028	
法人名	社会福祉法人 寿真会	
事業所名	グループホームらくえん倶楽部	
所在地	山梨県中央市極楽寺745番地1	
自己評価作成日	平成27年9月25日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会	
所在地	甲府市北新1-2-12	
訪問調査日	平成27年10月1日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念に向かい毎年事業所の年間目標を掲げています。今年は「職員一人当たり20件以上のヒヤリハットをあげる。』『稼働率98%を目指す』の二つを目標とし、入居者様に安心して毎日を過ごして頂けるよう小さな些細な事も見逃さず、重大事故に繋がらないようグループ職員全員で協力し支援しています。中庭にテラスがあり、天気の良い日にはカフェ等屋外でのイベントも実施しています。家庭菜園もあり色とりどりの季節の野菜を育てています。周囲を田畑に囲まれ自然豊かで閑静な環境です。環状道路からも近く交通アクセス良好な場所です。ISO9001の認証を取得し、サービスの質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中央自動車道、甲府南インターチェンジから車で5分、環状道路からも近く交通便利な立地である。事業所周辺にはアイメッセや大企業、田園が広がり季節の移り変わりを実感することができる。理念を達成する為に年間目標を掲げ、今年目標でもあるヒヤリハットの実情を毎月の会議で報告し、重大事故に繋がらないよう職員本位ではなく利用者の立場に立ち自立支援の実践に繋げている。また、ISO9001の認証を取得し、理念である「人間性の尊重・安らぎと幸せに満ちた空間の提供」を図れるよう管理者と職員は日頃からサービスの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 (グループホームらくえん倶楽部)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は、玄関や共同生活室に掲げてユニットミーティングにて確認している。	法人の理念を事業所の理念として職員の目につく場所に掲げ、毎月のユニットミーティングや法人全体集会でサービスの意義を確認している。また、全職員が出席出来る時間帯に会議をもち年間目標を職員全体で話し合い、共有して実践に繋げている。	法人の理念そのままではなく、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを基に職員の心に残るような言葉で地域密着型サービスとして、実践に繋がる事業所独自の理念をつくりあげる事を期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の祭り等に参加し、ボランティアを受け入れ外出行事等にも参加してもらっている。	法人が自治会に加入している。地域の河川清掃、お祭り、避難訓練に参加して地域の住民との交流に努めている。近隣の人たちが立ち寄り来たり来てもらえたりするよう事業所から発信し、地域とつながりが持てるよう市や社協に働きかける取り組みを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを利用し、日々の生活状況等を発信し理解して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム及び特養の近況報告を三ヶ月に一度行い、意見交換を行っている。	3か月に1回特養と合同で開催している。事業所から行事や研修の報告をし、参加メンバーから質問、意見、要望を受け事業所の取り組み内容を伝えている。家族からは職員の異動報告をしてほしい、防災訓練の実施についての質問があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は、認知症を考える検討会に参加している為、市町村との連携が密にとれ始めている。	市の関係者と合同で開催される「認知症を考える検討会」に出席して、関係者同士連携をとれる関係が持てるようになってきた。また、市の担当者とは推進会議開催の連絡や事業所の問題解決に向けて電話等で相談するなど協力関係を築くよう連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修が毎月行われているため、年に一度は身体拘束の研修を行っている。自由行動が激しい入居者がいる為、入居者家族全員に了承して頂き理解して頂いた上で施錠する時間がある。	法人全体の研修会には全職員が出席出来るよう取り組んでいる。毎月の研修会の中で年に一回は身体拘束の研修があり、身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を理解し身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにおいても話し合いが行われているため、自覚を持ち援助にあたっている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方もいますので、都度必要に応じて話し合いを持ちながら支援しています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は丁寧に分かりやすく説明している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や意見箱を設置し意見・要望を聞き反映している。	家族会の行事、運営推進会議、面会等家族が事業所に来る機会が多く、常に問いかけ、意見等を気軽に言ってもらえる関係が出来ている。職員の異動で入所した職員の紹介が無いなど家族からの意見があり、職員を紹介する対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、全体集会、個人面談等で有意義な場を作っている。	ユニットリーダーと職員、リーダーと管理者、管理者と施設長がそれぞれ個人面談を半年に1回行い、意見等を聞く機会を設けている。また、毎月行っているユニット会議で管理者は職員からの要望や意見を聞くように心がけ、仕事中でも日頃から職員とコミュニケーションを図って出された意見、要望はケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給に加え、年に二回の賞与や長年勤続者の表彰を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外への研修は積極的に参加するよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の研修や市町村主催の検討会等に参加し交流の場を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が送れるよう、家族や本人の現状を把握し支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査においては、管理者と介護支援専門員で伺い、不安な事や困っていることを傾聴し、信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なニーズの中から、一番必要とされていることを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを最優先し、安心して暮らせる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にも参加して頂けるよう都度連絡を取り対応している。かりん便りも発行し家族との絆も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	バスハイクなどで、ふるさと巡りをしたり、苑の周辺を散歩することにより地域の方との交流もある。祭り等への参加もよい場所である。	これまでの生活歴等は本人、家族から聞いて記録している。バスハイクをして家の近くを通りかかった時には自宅に寄ったりする「ふるさと巡り」を実施している。また、家族と待ち合わせしてお祭りに行くなど地域との接点を持ちながら関係を継続出来るよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアにて共通の話題を提供し、カラオケやゲームなどを行っている。入居者様同士コミュニケーションもとれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着型という事もあり、同じ地域に住んでいるため、必要があれば相談し支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全員でカンファをしているため一人一人の意向が把握でき、本人の希望に少しでも近づけられるよう努力している。	本人にとってどのように暮らすことがよいかをケアプランの作成時等に本人や家族から聞いている。また、日々の関わりや日常会話の中で聞いたことを記録し、一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に生活歴等を聞き、これからの生活に生かせる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の意向に沿った援助が出来るよう個別ケアを重視している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・ケアカンファレンス・担当者会議、プランの評価を行い、介護計画を作成している。	入居時に利用者の心身の状況、希望及び置かれている環境を踏まえて1か月の暫定で介護計画を作成し、意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い家族の意向を聞き短期、長期の介護計画を作成している。また、訪問看護師、主治医が必要と判断した時は関係者で話し合いモニタリングして介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・グループセッションへの記録等を利用し、又、月に一度のミーティングにおいて情報の共有に努めている。ヒヤリハットを上げることも見直しに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時に合った柔軟な援助を行う事が出来ている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他職種との連携を図ることにより、どんな時でも柔軟に対応出来ている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人に対し月に二回の往診があるため、適切な医療を受けることが出来ている。	入居時に本人、家族が希望するかかりつけ医を受診していた利用者が家族の同意で事業所の主治医に変更した。月2回の往診があり利用者全員が受診している。往診以外で受診する場合は、家族が同行しているが不可能な時には職員が同行し適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養が併設されている事もあり、オンコール体制が整っており、急変時等には適切な対応が出来ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医が近隣にいる為、適切な判断を仰ぐことが出来、スムーズに入退院出来ている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の看取り説明にて家族の意向を書面に確認している。終末期は早めに家族と話し合いの場を持ち支援している。	入居の契約時に看取りについて事業所が対応し得るケアについて説明を行い、家族の意向を確認している。病院に入院するなど状況の変化のたびに家族等に確認をしているが主治医、看護師、職員との信頼関係があり事業所での看取りを希望する家族が多く関係者と共に支援に取り組んで、すでに何人かの看取りを行なった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時はマニュアルに沿って対応し、オンコールに繋がっている。施設内研修やミーティング等で酸素ボンベの取り扱いなどを確認している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で年二回以上の訓練が行っている。中央市で行う避難訓練にも参加している。	法人全体で年2回、昼と夜の避難訓練を実施している。消防署も参加して避難経路の確認をもらい指導を受けた。訓練には全職員が参加して消火器、防水訓練、また、消防署の指導で職員が利用者になり実際の避難方法の指導を受けた。併設している3つの施設が協力し合う、夜間リーダーの仕組みを作った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への言葉掛けは、理念にもあるように尊厳を守るよう特に注意し支援している。	トイレの誘導時は耳元で声掛けをして利用者を傷つけないよう配慮している。トイレや部屋の戸はプライバシー確保の為閉めるよう心がけているがどうしても部屋の戸を閉めたくない利用者の部屋の入り口に暖簾を下げ対応している。利用者に関する記録等の書類は事務所に保管して管理を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをするときには、必ず本人の意向を聞き職員の都合に合わせないよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく生活して頂く上で、傾聴に努め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意向が伺える時は意向を聞き入れ、季節に合った服装を選び、理髪等も来苑する美容師を利用し対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・片付けは其々可能な入居者が一緒に楽しみながら行っている。	栄養士がバランスのとれた献立を作っている。食材はお店から配達してもらい調理専門の職員が調理している。利用者の個々の力を活かし調理、配膳、片付け、洗濯など出来る利用者が職員と一緒にいる。職員も食事介助しながら利用者と一緒にテーブルを囲んで楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌を活用し、食事は把握できている。水分補給は個々に合った形状でトロミをつけて対応したり、好きな物を提供して確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った対応で口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導を行ったり、個々のパターンに沿った声掛けをしたりすることにより自立支援に向けている。	時間でトイレ誘導を行いトイレの戸を閉めて見守り、利用者のプライドを傷つけないよう配慮した対応を行っている。入居前はおむつを使用していた利用者でも昼はリハビリパンツに替え、時間を決め誘導することにより、トイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたり、毎日決まった時間にラジオ体操の音楽が流れる為身体を動かし対応している。看護との連携にて、三日排便が確認できないときは排便コントロール薬を使い行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてないため、毎日入浴介助を行っている。一人一人の体調とタイミングに合わせて入浴できている。	毎日、午後から入浴することができるが週2回を基本とし外出する前日や体調を見ながら入浴の支援をしている。入浴を拒む利用者に対しては散歩した後やタイミングを見ながら声掛けをしている。また、シャンプー、リンスは利用者毎好みのものを使用している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名(花梨)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向に合わせて臥床して頂いている。眠剤を導入し休まれる方もいますが、不穏時は傾聴に努め安心して休めるまで一緒に過ごすよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	指差し確認を行うことにより、間違いなく服用している。いつでも確認が出来るようにユニットに服薬説明書が置いてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来ることを見極め、カラオケ・買い物・外食等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に二回以上行事・外出を心がけている。家族参加やボランティアの協力を得て全員で出掛けることも多い。	日常的には施設の敷地内や事業所の周辺を散歩している。月に1回併設の施設にある地域交流ホールで催しがあり見学に行くなど戸外に出る機会を作っている。また、ボランティアや家族に介助の協力を依頼してお弁当を持参して季節を感じることを外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があるため、個々に合った対応で買い物も出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時には直ぐに対応している。家族からの電話も繋げ柔軟に対応できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月カレンダーを入居者様が作成し貼っている。季節の花々をフロアに飾る事で季節を感じてもらい心地よい空間を作るよう努力している。	利用者が日中過ごしている共用の場所は広々としてソファやテレビが配置よく置かれ、窓からは光が差し込み、外の景色やリビングからテラスに出ると目で肌で季節を感じることができる。共用の場所には外出の写真やカレンダーが飾られ飾り過ぎない居心地のよい場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのTVの前に三人掛けのソファが置いてあり、気の合った入居者様と一緒に同じ時間を過ごしている。ユニットなので、居室で自由に過ごされたり、フロアで新聞を読んだりと思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで生活してきた馴染みの家具を入れたり、使い慣れた茶碗や箸等を使ったりと、安心して生活できるよう心がけている。	居室にはベット、整理ダンス、洗面台、換気扇、絵画、温度・湿度計が備えてある。利用者が以前書いた習字やテレビ、イスやテーブル熱、帯魚などそれぞれの利用者が居心地よく過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	併設の特養とも交流を頻繁にしている為、フロアを出ても顔なじみの職員がいる為安全で安心した生活が送れている。		